

1. プログラム概要

【目的】本事業は、中国日本友好協会の招聘に応じて大学生・大学院生を中国に派遣し、「中国とのふれあい」をテーマに、大学訪問やテーマに関する視察・交流等を通じて同世代交流を行うことで、両国の若者の間に友情を醸成し、相互理解の更なる深化を目的として実施しました。

【参加者】日本の大学生・大学院生等 99名

【訪問地】中国 北京市、桂林市、広州市

【日程】

■ プレプログラム（2回）

2024年9月10日（火） 第1回オンライン事前オリエンテーション

2024年11月5日（火） 第2回オンライン事前オリエンテーション

（外務省講演「最近の日中関係」、注意事項等説明）

■ 派遣プログラム

2024年11月24日（日）～11月30日（土）6泊7日

11月24日（日）北京大興国際空港より中国入国

11月25日（月）【視察】万里の長城（居庸関）

【学校交流】北京第二外国語学院

【歓迎会】

11月26日（火）桂林市へ移動

【視察】桂林博物館、象鼻山、東西巷

11月27日（水）【視察】逍遥楼、靖江王府、溢達紡績有限公司

【学校交流】桂林航空工業学院

11月28日（木）【視察】漓江くんだり、桂林市陽朔県西街、歴村

【報告会】訪中成果・帰国後のアクション・プラン発表

11月29日（金）広州へ移動

【視察】陳氏書院、広州タワー

【夕食会】

11月30日（土）広州白雲空港より中国出国

2. 記録写真

	
2024 年 11 月 25 日（月）【視察】 万里の長城（居庸関）	2024 年 11 月 25 日（月）【学校交流】 北京第二外国語学院
	
2024 年 11 月 27 日（水）【視察】 靖江王府	2024 年 11 月 27 日（水）【視察】 溢達紡績有限公司
	
2024 年 11 月 27 日（水）【学校交流】 桂林航空工業学院	2024 年 11 月 28 日（木）【視察】 漓江くだり

	
2024 年 11 月 29 日（金）【夕食会】	

3. 参加者の感想（抜粋）

◆中国に行って、私は中国という国の規模の大きさを知りました。日本という小さな島国の尺度で生きていた私にとって中国の大きな大地は革命でした。移動でかかる時間も桁違いに長く、そして、行く都市によって気候、風土、季節さえもガラリと違う中国は、同じ国でありながら多様な文化を認め合っており、一つの国でありながら多くの国家の連合体であるような印象を受けました。また、中国人の多くは日本に友好的で、優しいということにも驚きました。中国人の方々は、実際に会ってみると皆一様に優しく朗らかで、知らない国であるはずなのにとても安心しました。

◆中国は近くて遠い国とよく形容され、実際に訪れると本当にその通りだと思いました。言語は漢字を使うという点では日本語と同じですが、音は全然違います。人々も日本人より物事をはっきり言って、仲良くなると一気に距離を縮めてくれます。私は 40 カ国ほど旅をしたことがありますが、こんなに近いのに、こんなに日本とは違う衝撃を受けた国は初めてでした。大変な社会を生きる大学生は、私たちにとても優しく温かく接してくれました。桂林の学生はわざわざ私たちのホテルまで来て、桂林を案内して地元のご飯を奢ってくれ、ガイドさんは私たちが伝統衣装を着るのをお手伝いしてくれました。この交流まで中国にこんな素敵な人たちがいるとは知らず、胸が熱くなりました。だからこそ、口だけではなくて、日本と中国の懸け橋となれるよう、まずは中国語の勉強を続けたい。そして、中国のことをもっと知りたい。若い世代から両国の関係を改善していきたいと思いました。

◆大学生との交流、街の人との交流を通して中国人の多くの優しさ、温かさに触れ、同じ人間なのだと再確認することができました。中国では、ご飯を残すことが良いとされていたり、言語の面では破裂音が多く抑揚が大事になってくるためきつく聞こえてしまうなど、日本人はこのような文化や国の特色を知らず、自分の常識を当てはめて考えてしまっていると思います。現地に実際行って現地の人々と交流すると全く変わってくる、と思いました。しかし、それは私自身が実際に現地に行くことができ、自分の身体と目で見て感じ経験することができたからです。ですので、今回の経験を家族や友人に話し、身近なところから中国への理解を深めていきたいです。また、今回の訪問を通して、もっと長期的に滞在して、中国のいい部分も悪い部分も経験したいと思いました。



1日前

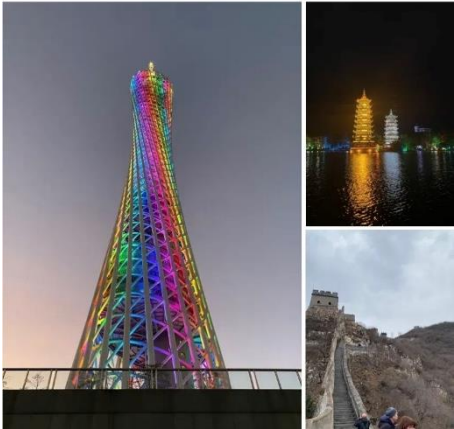


A 3x3 grid of nine photographs showing various scenes from China. The top row includes a plate of food with rice and vegetables, the Rainbow Tower in Changsha, and a hand holding a map. The middle row shows a night street scene with lights, a person on a boat, and a person on a cliff. The bottom row features a model airplane, the Great Wall, and a street with red lanterns.



4

JENESYS2024、日本大学生訪中団第二陣に参加しました！
私にとって初めての中国訪問でした。たった1週間の滞在でしたが、北京、桂林、広州と3都市を回り、充実した時間を過ごすことができました。
現地の大学生と交流し、様々な場所を訪れ、文化の異なる場所でも、私たちと同じように生活する人々を見て、なんとなく違い存在であった中国が、近くに感じられるようになりました。
このプログラムを行うにあたって、尽力してくださった全ての人に感謝申し上げます。
ありがとうございました！



2024 年 12 月 1 日（団員の SNS）



いいね！： 他 4 人
[JENESYS2024 訪問中国の記録 ～観光地編～]

11月24日(日)～30日(土)の間、JENESYS2024に参加し、中国を訪問

北京は新旧融合の街で、まさに「城」市の世界。
歩道や建物だけでなく、人の心も広がった
肌を刺すような風が吹く中、タクシーを呼んでくれた大哥、非常感謝！

桂林は街並みも人々も親しみやすい街。
美しい古風な景色を楽しんだ後は、舞台で特色ある食べ物を食べたり、チェーン店でタピオカを飲んだり、漢服体験をしたり、様々な楽しみ方を選べる場所

「食は広州に在り」。まさしくその通りで、広州はとにかくご飯が美味しかった。
広州タワーからは、美しい夕焼けを見ることができた。まるで中国の大地が最後私達を見送ってくれているかのようで、その美しさを写真で伝えきれないのが悔しい。
夕焼けは広州の街のみならず、中国での記憶を更に輝かしく照らしてくれた。

実際にその地に行くことで、人や街の雰囲気を実感することができて良かったし、SNS上だけで判断してしまいがちな自分の視野の狭さを実感した。それに、帰国してから、新たな日本の良さも見つけることができ、実りのある貴重な研修になった。

【1～5日目】北京【6～13日目】桂林【14～20日目】広州

北京正新旧融合の城市、有像城堡一样的气氛。不仅人行道和建筑物，而且人们的心也很宽广。非常感谢在寒风的情况下，为了我们叫出出租车的大哥。

桂林的街道和人们都很平易近人。看到美丽的景点后，可以享受吃猪手的地道菜，去逢盛店喝奶茶，穿汉服的体验等等。
“食在广州”。顾名思义，广州菜特别好吃。我觉得和日本人口味很合适。

从广州还能看到美丽的晚霞。好像最后中国大地给我们送行一样，只是看照片，不能传达那个漂亮景象。我放遗憾啊。还是回去中国的人们也去中国就好啊！
晚霞不仅照耀了广州的城市，而且回顾了我在中国度过的记忆！

这次访中的研修给了我新的观点，还也成为了宝贵的研修！

●中国菜是美味可口 中国风景是风花雪月 中国人是亲密无间 我的心里喜气洋洋●

2024 年 12 月 1 日（団員の SNS）

5. 報告会での訪中成果とアクション・プラン発表

	
【訪中中の学び】 広大な土地と圧倒的なスケール、煌びやかな街並、万里の長城の歴史等に圧倒されました。そして、ただ一人の人間として何の偏見もなく接して下さった中国の人々の親しみに満ちた態度が嬉しかったです。一方で訪れる先々で優しさに触れるたび、自分の中にあった考えがいかに狭く偏ったものであったかを痛感し、申し訳ない気持ちで一杯で胸が詰まる思いがしました。何かを通してではなく、誰かに聞いたことではなく、事実を自分の目で直接確かめる必要があると学びました。 【アクション・プラン】 これからも両国の発展を願い、様々な情報に惑わされることなく、目の前の人の優しさを見失わないように生きていきたいです。	【訪中中の学び】 「相手の言葉を話すことの効果」について、昨年の呉江浩大使の日本語ご挨拶拝聴の経験と重ね合わせ、改めて体感することが出来ました。学校訪問時の明木団長のご挨拶が日本語から中国語に切り替わったその瞬間、今までの逐次通訳の中国語を聞いていたときとは明らかに異なる反応を示す学生を見て、「同じ内容を伝えるにしても、相手の母国語で伝達するところも違うのか」と、改めて実感しました。今回の訪中は、想像以上に気づきの多い滞在となりました。 【アクション・プラン】 「志を同じくするものは山海に隔てられていても分かたれることはない」。この言葉を胸に、対話の精神を決して忘れず、自分の人生を邁進していきます。

	
【訪中中の学び】 私にとってこの中国の旅は成長の旅でした。中国は、日本と似ているところもあれば、全く異なっているところもあり、驚くことには事欠かない研修となりました。中国の方々は皆優しく、温かかったのですが、私の中国語が拙いため、私は満足に感謝を伝えることもできませんでした。友達になれて嬉しい、もっと話したい、そう思っても言葉にすることもままなりませんでした。素晴らしい皆様と心ゆくまま交流をできないことは私にとって、とても歯がゆいことでした。 【アクション・プラン】 「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に出でし月かも」これは中国で玄宗皇帝に仕えた阿倍仲麻呂という人の詩です。どこにいても見える月は同じ。その感動を分かち合えるよう、中国語の勉強に努めたいと思います。	

実施団体名：（公財）日中友好会館